

授業科目	リハビリテーション医学		担当者	松下 健史 他	(オムニバス)
学 科 名	作業療法学科	学 年	1年	総単位数	2単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修
内 容	リハビリテーション医学の目的である、「障害を持つ人々を身体的、精神的、社会的、経済的にできる限り自立させる」ことのために、グループワークや事例を通して考える機会や必要な知識を身につける。				
到達目標	リハビリテーション関連職種の専門家を目指すための動機づけとなり、必要な知識を身につけることができる。				
授業計画					
第1回 オリエンテーション/グループワーク説明					
第2回 グループワーク					
第3回 グループワーク					
第4回 グループワーク					
第5回 グループワーク					
第6回 グループワーク					
第7回 グループワーク発表					
第8回 福祉事業と作業療法					
第9回 文献検索／個人情報保護について					
第10回 リスク管理について					
第11回 重度訪問介護と作業療法①					
第12回 重度訪問介護と作業療法②					
第13回 海外での作業療法					
第14回 制度外での作業療法①					
第15回 制度外での作業療法②					
評価方法					
①グループワーク(40%)＋②授業まとめ用紙、課題レポート(60%) 遅刻・欠席は減点します。					
授業時間外の学習(予習・復習等)について					
講義内でお伝えします。					
授業時間外の質問について					
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。					

教科書
書名
著者名
出版社
参考図書
書名
著者名
出版社
留意事項
<p>本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システムMoodleなどを通じて通知する。</p> <p>また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。</p>

授業科目	リハビリテーション概論			担当者	北田 泰敏 他 (オムニバス)	
学科名	作業療法学科	学 年	1年	総単位数	2単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内 容	リハビリテーション概論の歴史、理念を学ぶ。リハビリテーションの流れ、チームアプローチのあり方など実践の中で必要な事柄についても学ぶ。					
到達目標	リハビリテーションとは何かについて自分の言葉で説明できること。障害を持つ人(身体障害・精神障害・高齢者など)の立場に立つとはどういうことなのか、考えられる事。					
授業計画						
第1回 リハビリテーションの定義:歴史的に見た多様な意味を学ぶ						
第2回 リハビリテーションの理念						
第3回 ノーマライゼーションとは						
第4回 障害とは何か						
第5回 リハビリテーションの過程						
第6回 ICFについて						
第7回 ICFについて②						
第8回 リハビリテーションの啓発や地域支援について(松本)						
第9回 老年期領域でのリハビリテーション(大垣)						
第10回 障害福祉領域でのリハビリテーション(市田)						
第11回 病院でのリハビリテーション(大槻)						
第12回 ロボット開発とリハビリテーション(福元)						
第13回 発達領域でのリハビリテーション(大畑)						
第14回 障害受容について						
第15回 地域リハビリと、まとめ						
評価方法						
定期テスト80%。提出物20%で評価します。						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
毎回の復習を必ず行い次に望むこと。リハビリテーションに関連する書物を読み、まとめる練習をすること。グループワークなどの時は、積極的に意見を表明し、他者の意見もよく聞く態度にて望むこと。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。						

教科書	
書名	リハビリテーション概論―改訂第4版―
著者名	上好昭孝・土肥信之
出版社	永井書店
参考図書	
書名	リハビリテーションの不思議
著者名	川口淳一
出版社	青海社
留意事項	<p>本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システムMoodleなどを通じて通知する。</p> <p>また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。</p>

授業科目	医学英語		担当者	近藤 未奈	
学科名	作業療法学科	学 年	1年	総単位数	2単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修
内 容	この授業では、医療の現場で使われている英語表現や基本的用語、専門用語の成り立ちを、特に理学療法分野に関連の深いものから重点的に学びます。また、英語文献・論文の内容を正確に読むために必要な文法項目を復習します。英語論文の抄録を読む演習も適宜行います。				
到達目標	医学英語に特有の英語表現に慣れ、国際的な学術雑誌やデータベースに掲載されている英語文献の内容を正確に理解できる力を身に付けることを目標とします。				
授業計画					
第1回 イントロダクション:医療分野における英語の必要性について/医学英語の基本構造					
第2回 接尾辞と接頭辞					
第3回 英語文献を読むための必須文法項目 (1)					
第4回 身体部位の用語					
第5回 骨の用語					
第6回 英語文献を読むための必須文法項目 (2)					
第7回 筋肉の用語					
第8回 神経の用語					
第9回 英語文献を読むための必須文法項目 (3)					
第10回 英文読解 (1) 症例を読む					
第11回 英語論文の基礎知識 (1) 論文・抄録の構造と読み方					
第12回 英文読解 (2) 論文の抄録(アブストラクト)を読む					
第13回 英語論文の基礎知識 (2) 英語データベースの利用方法					
第14回 英文読解 (3) カルテを読む					
第15回 医療現場の英会話					
評価方法					
授業への取り組み(問題演習の解答発表など、積極的な受講態度)を30%、課題の評価(小テスト、レポート課題)を30%、筆記試験を40%として、総合的に評価します。					
授業時間外の学習(予習・復習等)について					
毎回の授業で学んだ新しい内容はすぐに復習し、覚えるべき内容を確実に定着させていくこと。語句についての学習事項は特に、意識して覚えるようにすることで後の授業内容にも役立ちます。英文読解の予習課題が出た場合は辞書や用語集でわからない語句の意味をあらかじめ調べ、適切な和訳を作成してくること。					
授業時間外の質問について					
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。授業時間外の場合は、以下のアドレスにメールしてください。					
メールアドレス			f13343@ocr.ac.jp		

授業科目	医学英語		担当者	近藤 未奈	
学 科 名	作業療法学科	学 年	1年	総単位数	2単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修
内 容	この授業では、医療の現場で使われている英語表現や基本的用語、専門用語の成り立ちを、特に理学療法分野に関連の深いものから重点的に学びます。また、英語文献・論文の内容を正確に読むために必要な文法項目を復習します。英語論文の抄録を読む演習も適宜行います。				
到達目標	医学英語に特有の英語表現に慣れ、国際的な学術雑誌やデータベースに掲載されている英語文献の内容を正確に理解できる力を身に付けることを目標とします。				
教科書					
	書名	医療スタッフのカンタン実践！英会話 Web動画&音声付			
	著者名	佐々江龍一郎			
	出版社	株式会社Gakken			
参考図書					
	書名				
	著者名				
	出版社				
留意事項					
<p>小テストは指定の教科書より出題します。テストの詳細は初回授業で説明します。</p> <p>授業中に英和辞典(電子辞書可/高校英語に対応できるレベルのもの)が必要となるので、毎回必ず持参すること。</p> <p>毎回配布される資料は教科書として扱うものであり、以前のページをしばしば参照します。よって過去に配布されたものも毎回持ってきてください。</p> <p>本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システム Moodle などを通じて通知する。</p> <p>また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。</p>					

授業科目	運動学各論			担当者	長谷川 昌士	□実務教員
学科名	作業療法学科	学 年	1年	総単位数	1単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	各関節(手指関節、股関節、膝関節、足関節、脊柱・体幹、顔面と頭部)の構造と関節運動および関節運動における靭帯や筋の作用を理解する。運動学習における理論について理解を深める。運動学的分析手法である床反力、体重心、関節モーメントについて理解を深める。					
到達目標	各人体関節におけるしくみおよび筋や靭帯の作用、運動学習における理論、運動学的分析手法(床反力、体重心、関節モーメント)について、自分なりに説明ができることを到達目標とする。国家試験の類似問題を解きながら、6割以上の正解を目指す!					
実務教員による授業	臨床経験豊富なエキスパートの講師が、最新の知見を基に講義と実技を行う。 【講師略歴】 回復期病院、急性期病院を経て、現在は地域リハビリテーションに従事している。					
授業計画						
第1回 手指の関節運動学1						
第2回 手指の関節運動学2						
第3回 手指の関節運動学3						
第4回 股関節の運動学 1						
第5回 股関節の運動学 2						
第6回 膝関節の運動学 1						
第7回 膝関節の運動学 2						
第8回 足関節・足部の運動学1						
第9回 足関節・足部の運動学2						
第10回 姿勢のバイオメカニクス						
第11回 歩行の基礎						
第12回 歩行のバイオメカニクス1						
第13回 歩行のバイオメカニクス2						
第14回 立ち上がりのバイオメカニクス						
第15回 歩きはじめのバイオメカニクス						
評価方法						
筆記試験 100%						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
授業内容は必ず教科書、参考書で見直し、学習したことを授業ノートに追記しておくこと。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。授業時間外の場合は、以下のアドレスにメールしてください。						
メールアドレス			hotsmile.hasegawa@gmail.com			

授業科目	運動学各論			担当者	長谷川 昌士	<input type="checkbox"/> 実務教員
学科名	作業療法学科	学 年	1年	総単位数	1単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	各関節(手指関節、股関節、膝関節、足関節、脊柱・体幹、顔面と頭部)の構造と関節運動および関節運動における靭帯や筋の作用を理解する。運動学習における理論について理解を深める。運動学的分析手法である床反力、体重心、関節モーメントについて理解を深める。					
到達目標	各人体関節におけるしくみおよび筋や靭帯の作用、運動学習における理論、運動学的分析手法(床反力、体重心、関節モーメント)について、自分なりに説明ができることを到達目標とする。国家試験の類似問題を解きながら、6割以上の正解を目指す！					
実務教員による授業	臨床経験豊富なエキスパートの講師が、最新の知見を基に講義と実技を行う。 【講師略歴】 回復期病院、急性期病院を経て、現在は地域リハビリテーションに従事している。					
教科書	病気が見えるシリーズ vol.11 運動器・整形外科					
	著者名					
	著者名					
	出版社					
参考図書	筋骨格系のキネシオロジー					
	著者名					
	著者名					
	出版社					
留意事項	無断欠席や遅刻に注意してください。 本授業は、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営を行う。(遠隔授業又はハイブリット型授業) 実施方法や授業計画詳細については、各科目担当者より、別途通知する。 また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更が生じた場合は、各科目担当者より、別途通知する。					

授業科目	運動学総論			担当者	長谷川 昌士	□実務教員
学科名	作業療法学科	学 年	1年	総単位数	1単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内 容	運動学(Kinesiology)は、「人間の運動の科学」であり、解剖学、生理学を基礎とした応用科学である。運動学総論では可動関節の分類と関節運動の種類、筋の基本構造と機能、各関節(肩複合体、肘関節、前腕、手関節)の構造と関節運動および関節運動における靭帯や筋の作用を学習する。					
到達目標	各人体関節におけるしくみおよび筋や靭帯の作用について自分なりに説明ができることを到達目標とする。また、国家試験の類似問題を解きながら、6割以上の正解を目指せるように要点をまとめていく。					
実務教員による授業	臨床経験豊富なエキスパートの講師が、最新の知見を基に講義と実技を行う。 【講師略歴】 回復期病院、急性期病院を経て、現在は地域リハビリテーションに従事している。					
授業計画						
第1回 身体運動の記述と解釈に必要な力学の基礎1						
第2回 身体運動の記述と解釈に必要な力学の基礎2						
第3回 身体運動の記述と解釈に必要な力学の基礎3						
第4回 運動器の構造と機能1						
第5回 運動器の構造と機能2						
第6回 運動器の構造と機能3						
第7回 肩複合体の運動学1						
第8回 肩複合体の運動学2						
第9回 肩複合体の運動学3						
第10回 肘関節・前腕の運動学1						
第11回 肘関節・前腕の運動学2						
第12回 肘関節・前腕の運動学3						
第13回 手関節の運動学1						
第14回 手関節の運動学2						
第15回 手関節の運動学3						
評価方法						
筆記試験 100%						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
授業内容は必ず教科書、参考書で見直し、学習したことを授業ノートに追記しておくこと。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。授業時間外の場合は、以下のアドレスにメールしてください。						
メールアドレス				hotsmile.hasegawa@gmail.com		
教科書						
書名	15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学					
著者名	石川朗 種村留美 小島悟					
出版社	中山書店					

留意事項

無断欠席や遅刻に注意してください。

本授業は、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営を行う。(遠隔授業又はハイブリット型授業) 実施方法や授業計画詳細については、各科目担当者より、別途通知する。

また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更が生じた場合は、各科目担当者より、別途通知する。

授業科目	解剖学			担当者	大友 健治 他	(オムニバス)
学科名	作業療法学科	学 年	1年	総単位数	3単位	
		開講時期	通年	選択・必修	必修	
内 容	人体および人体を構成している細胞・組織・器官の形態・構造の基本を系統的に学ぶ。講義の順序は、一部変更となる可能性がある。					
到達目標	人体の構造を理解するための基礎的知識を身につける。					
授業計画						
第1回 解剖学総論・人体の大要・解剖学的用語・人体の区分						
第2回 解剖学総論・人体の構成 細胞 組織 上皮 器官 人体の発生 (遠隔授業:オンデマンド)						
第3回 骨学総論・骨の構造 骨の形態 骨の血管と神経 骨の発生						
第4回 関節靭帯学総論 ・骨の連結 関節の機能と構造 関節の分類						
第5回 骨学各論・脊柱・胸郭(遠隔授業:オンデマンド)						
第6回 骨学各論・脊柱・胸郭						
第7回 骨学各論・頭蓋骨(遠隔授業:オンデマンド)						
第8回 骨学各論・頭蓋骨						
第9回 骨学各論・上肢の骨(遠隔授業:オンデマンド)						
第10回 骨学各論・手指の骨						
第11回 骨学各論・下肢の骨(遠隔授業:オンデマンド)						
第12回 骨学各論・下肢の骨						
第13回 筋肉総論・筋の構造 作用(遠隔授業:オンデマンド)						
第14回 筋肉総論・筋の構造 作用(遠隔授業:オンデマンド)						
第15回 筋肉総論・上肢の筋						
第16回 筋肉総論・上肢の筋						
第17回 筋肉総論・下肢の筋						
第18回 筋肉総論・下肢の筋						
第19回 筋肉総論・頸部・体幹の筋						
第20回 筋肉総論・頸部・体幹の筋						
第21回 循環器系各論・動脈系						
第22回 循環器系各論・動脈系						
第23回 循環器系各論・静脈・リンパ系						
第24回 循環器系各論・静脈・リンパ系						
第25回 内臓学						
第26回 内臓学						
第27回 感覚系各論						
第28回 感覚系各論						
第29回 前期まとめ						
第30回 前期まとめ						
第31回 神経学総論・神経の構成 発生						
第32回 神経学総論・神経の構成 発生						
第33回 神経学総論・中枢神経系						
第34回 神経学総論・脳幹・延髄						
第35回 神経学総論・橋・中脳・網様体						

第36回 神経学総論・小脳
第37回 神経学総論・大脳1
第38回 神経学総論・大脳2
第39回 神経学総論・大脳3
第40回 神経学総論・大脳4
第41回 神経学総論・大脳5
第42回 神経学総論・上行性伝導路
第43回 神経学総論・下行性伝導路
第44回 神経学総論・末梢神経系
第45回 神経学総論・末梢神経系
評価方法
小テスト前期・後期ともに4回(6割以上で本試験得点に各2点加点) 本試験(前期試験・後期試験)100%
授業時間外の学習(予習・復習等)について
単元ごとに小テストを行う。(各期3から4回)60点に満たないものは合格点になるまで再テストを行う。講義の中でまとめ用紙を配布しますので必ず各自で行うこと。
授業時間外の質問について
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。授業時間外の場合は、以下のアドレスにメールしてください。
メールアドレス kenji.ootomo@ocr.ac.jp
教科書
書名 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学
著者名 野村 嶷
出版社 医学書院
書名 国家試験対策コンテンツ
著者名
出版社 全国リハビリテーション教育協会
参考図書
書名 ネット解剖学アトラス
著者名 相磯貞和 訳
出版社 南江堂
留意事項
本授業は、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営を行う。(遠隔授業又はハイブリット型授業)実施方法や授業計画詳細については、各科目担当者より、別途通知する。 また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更が生じた場合は、各科目担当者より、別途通知する。

授業科目	解剖学実習			担当者	大友 健治・打田 明	
学科名	作業療法学科	学 年	1年	総単位数	2単位	(オムニバス)
		開講時期	通年	選択・必修	必修	
内 容	人体および人体を構成している細胞・組織・器官の形態・構造の基本を系統的に学ぶ。					
到達目標	人体の構造を理解するための基礎的知識を身につける。					
授業計画						
第1回 解剖学総論・解剖学の言葉を理解しよう						
第2回 解剖学総論・解剖学の言葉を理解しよう						
第3回 骨学総論・骨に触ってみよう						
第4回 関節靭帯学総論・関節を機能ごとに分類しよう						
第5回 骨学各論・脊柱・胸郭を触ろう						
第6回 骨学各論・脊柱の連結(p183～191)						
第7回 骨学各論・頭蓋骨の連結(p182～183)						
第8回 骨学各論・頭蓋骨を触ろう						
第9回 骨学各論・上肢帯の連結(p191～205)						
第10回 骨学各論・上肢の骨に触ろう						
第11回 骨学各論・下肢の連結(p206～222)						
第12回 骨学各論・下肢の骨に触ろう						
第13回 筋肉総論・これまでのまとめ						
第14回 筋肉総論・これまでのまとめ						
第15回 筋肉総論・上肢筋の走行を知って触ろう						
第16回 筋肉総論・上肢筋の走行を知って触ろう						
第17回 筋肉総論・上肢筋の走行を知って触ろう						
第18回 筋肉総論・上肢筋の走行を知って触ろう						
第19回 筋肉総論・頸部・体幹筋の走行を知って触ろう						
第20回 筋肉総論・頸部・体幹筋の走行を知って触ろう						
第21回 循環器系各論・心臓の血管について詳しく見よう						
第22回 循環器系各論・脳血管を詳しく見よう						
第23回 循環器系各論・全身の血管に触ろう						
第24回 循環器系各論・全身の血管に触ろう						
第25回 内臓学・内臓学						
第26回 内臓学・内臓学						
第27回 感覚系各論・内臓の位置を確認しよう						
第28回 感覚系各論・感覚器の模型を触ろう						
第29回 前期まとめ						
第30回 前期まとめ						
第31回 神経学総論・神経の構造を知ろう						
第32回 神経学総論・神経の構造を知ろう						
第33回 神経学総論・神経の構造を知ろう						
第34回 神経学総論・脳幹の機能を知ろう						
第35回 神経学総論・橋・中脳・網様体の機能を知ろう						

授業科目	解剖学実習			担当者	大友 健治・打田 明	
学科名	作業療法学科	学 年	1年	総単位数	2単位	(オムニバス)
		開講時期	通年	選択・必修	必修	
内 容	人体および人体を構成している細胞・組織・器官の形態・構造の基本を系統的に学ぶ。					
到達目標	人体の構造を理解するための基礎的知識を身につける。					
第36回 神経学総論・小脳の機能を知ろう						
第37回 神経学総論・視床の機能を知ろう						
第38回 神経学総論・脳機能を知ろう(時間選択)						
第39回 神経学総論・脳機能を知ろう(時間選択)						
第40回 神経学総論・機能局在を学ぼう(時間選択)						
第41回 神経学総論・12脳神経を見よう(時間選択)						
第42回 神経学総論・上行性伝導路を書いてみよう(時間選択)						
第43回 神経学総論・下行性伝導路を書いてみよう(時間選択)						
第44回 神経学総論・腕神経叢を書いてみよう(時間選択)						
第45回 神経学総論・腰神経叢を書いてみよう(時間選択)						
第46回 神経学総論・デルマトームの感覚支配を知ろう(時間選択)						
評価方法						
前期・後期ともに口頭試問を講義内で行い、その結果で判定する。(5問連続正解で合格)						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
講義の中で、まとめ用紙を配布します。まとめ用紙は次回までに作成し提出すること。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。授業時間外の場合は、以下のアドレスにメールしてください。						
メールアドレス		kenji.ootomo@ocr.ac.jp				
教科書						
書名						
著者名						
出版社						
参考図書						
書名 PT・OT 基礎から学ぶ解剖学ノート						
著者名 中島 雅美編						
出版社 医歯薬出版株式会社						
留意事項						
本授業は、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営を行う。(遠隔授業又はハイブリット型授業)実施方法や授業計画詳細については、各科目担当者より、別途通知する。						
また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更が生じた場合は、各科目担当者より、別途通知する。						

授業科目	基礎作業学総論			担当者	大谷 将之 他	(オムニバス)
学科名	作業療法学科	学 年	1年	総単位数	2単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	日本作業療法士協会における作業療法の定義では、対象者(児)の健康と安寧を促進することを目的として、作業に焦点を当てた治療、指導、援助を行うことを作業療法としている。ここでは作業療法の核となる「作業」の概念について、その捉え方を学び、どのように実践に活かすのか理論や実践モデルを学習する。					
到達目標	①作業についての理解を深め、説明をすることができる ②作業の捉え方、分析方法について学び活用することができる ③作業療法に応用される理論的観点を理解する					
授業計画						
第1回 作業の概念(担当:大谷)						
第2回 作業的存在について(担当:大谷) (遠隔授業:オンデマンド配信)						
第3回 作業療法の歴史(担当:井上)						
第4回 作業特異性について(担当:大谷)						
第5回 作業バランスについて(担当:井上) (遠隔授業:オンデマンド配信)						
第6回 作業を捉える視点(担当:井上) (遠隔授業:オンデマンド配信)						
第7回 作業療法実践について(担当:井上) (遠隔授業:オンデマンド配信)						
第8回 作業科学(担当:大谷) (遠隔授業:オンデマンド配信)						
第9回 人間作業モデル(担当:大谷) (遠隔授業:オンデマンド配信)						
第10回 生活行為向上マネジメント(担当:北田)						
第11回 カナダモデル(担当:井上) (遠隔授業:オンデマンド配信)						
第12回 作業療法介入プロセスモデル(担当:大谷) (遠隔授業:オンデマンド配信)						
第13回 その他OT理論①(担当:北田)						
第14回 その他OT理論②(担当:大谷)						
第15回 まとめ(担当:大谷)						
評価方法						
定期テスト100%						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
リハビリテーションに関連する書物を読み、まとめる練習をすること。 グループワークなどの時は、積極的に意見を表明し、他者の意見もよく聞く態度にて望むこと。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。 授業時間外の場合は、教務事務を通じて、回答いたしますので、以下のアドレスにメールしてください。						
メールアドレス			kyomu@ocr.ac.jp			

教科書	書名	作業療法学全書 第2巻 基礎作業学
	著者名	澤田雄二 他
	出版社	協同医書出版社
参考図書	書名	作業で語る事例報告
	著者名	斎藤佑樹
	出版社	医学書院
留意事項	<p>本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システム Moodle などを通じて通知する。</p> <p>また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。</p>	

授業科目	救命救急医学			担当者	長谷川 昌士	
学科名	作業療法学科	学 年	1年	総単位数	1単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	急変の事態はあらゆる医療・福祉場面において発生します。医療スタッフが正しい知識を習得し、落ち着いて早期の対応を開始できるようになることが重要である。この講義では具体的な疾患を例に挙げ、急変時の状態や対応方法について理解を深める。また、心肺蘇生法やAEDの使用方法については模擬実習で習得を目指す。					
到達目標	各疾患における具体的な急性症状と評価法、およびそれらに対する急変対応について最低限の理解を目指す。また、心肺蘇生法やAEDの使用方法についてはDVD鑑賞および模擬実習にて体得できるまで練習する。					
授業計画						
第1回 急変対応(急性心筋梗塞、狭心症、致死性不整脈)						
第2回 急変対応(狭心症、致死性不整脈)						
第3回 急変対応(脳内出血、脳梗塞、クモ膜下出血)						
第4回 心臓突然死の現状、AEDを用いた救命処置の流れ(ビデオ視聴、学内実習)						
第5回 心臓突然死の現状、AEDを用いた救命処置の流れ(ビデオ視聴、学内実習)						
第6回 急変対応(気道閉塞)						
第7回 急変対応(肺血栓塞栓症)						
第8回 急変対応(出血性ショック)						
第9回 急変対応(アナフィラキシーショック)						
第10回 急変対応(急性大動脈解離)						
第11回 急変対応(消化管出血)						
第12回 急変対応(消化管穿孔)						
第13回 急変対応(下血)						
第14回 急変対応(低血糖)						
第15回 急変対応(急性腎不全)						
評価方法						
レポート 100%						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
授業で学習したことは配布プリント等で復習してください。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。授業時間外の場合は、以下のアドレスにメールしてください。						
メールアドレス				hotsmile.hasegawa@gmail.com		
教科書						
書名		カンタン 救命蘇生 動画で分かる胸骨圧迫&AED				
著者名		小林正直 石見拓				
出版社		学研				
参考図書						
書名						
著者名						
出版社						
留意事項						

本授業は、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営を行う。(遠隔授業又はハイブリット型授業) 実施方法や授業計画詳細については、各科目担当者より、別途通知する。

また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更が生じた場合は、各科目担当者より、別途通知する。

授業科目	在宅ケア論			担当者	立口 俊寛 他	<input type="checkbox"/> 実務教員
学科名	作業療法学科	学 年	1年	総単位数	2単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	在宅や地域におけるケア・リハビリテーションの実際を学び、ケア方法やリハビリテーションの視点を習得する。					
到達目標	フィジカルアセスメントの方法を実践し、在宅ケアにおける視点が習得できる。 地域リハビリテーションの支援を学び、在宅・地域での活動・参加支援の視点が習得できる。					
実務教員による授業	臨床経験豊富なエキスパートの講師が、最新の知見を基に講義と実技を行う。 【講師略歴】 藤原太郎、森田智也、立口俊寛 作業療法士 和泉リハビリ訪問看護ステーション勤務					
授業計画						
第1回 自己紹介、授業内容のファシリテーション						
第2回 地域での関わり(病院－地域とのつながりを含めて)						
第3回 地域での関わり(住民主体の活動について)						
第4回 地域リハビリテーションとは						
第5回 訪問看護ステーションの役割について						
第6回 在宅でケアをするということとは (フィジカルアセスメント導入)						
第7回 フィジカルアセスメント 観察・視診について						
第8回 フィジカルアセスメント 触診・聴診について						
第9回 フィジカルアセスメント 触診・聴診について						
第10回 フィジカルアセスメント 実技を中心に						
第11回 地域包括ケアシステムにおける作業療法の役割						
第12回 在宅・地域における認知症支援1						
第13回 在宅・地域における認知症支援2						
第14回 事例検討1						
第15回 事例検討2						
評価方法						
筆記試験100%						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
毎授業後に、配布資料や教科書内容を復習しておくこと。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。 授業時間外の場合は、教務事務を通じて、回答いたしますので、以下のアドレスにメールしてください。						
メールアドレス				kyomu@ocr.ac.jp		

教科書	
書名	フィジカルアセスメントガイドブック 目と手と耳でここまでわかる
著者名	山内 豊明
出版社	医学書院
参考図書	
書名	
著者名	
出版社	
留意事項	
<p>本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システム Moodle などを通じて通知する。</p> <p>また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。</p>	

授業科目	作業療法概論			担当者	小栢 拓也 他	(オムニバス)
学科名	作業療法学科	学 年	1年	総単位数	2単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内 容	リハビリテーションにおいて、作業療法は対象児・者の心身機能の回復を目指すことのみならず、生活機能や学習機能など対象児・者が行う『作業』の遂行度を高め、社会参加の可能性を引き出す働きかけである。					
到達目標	①作業療法の意義や概念について理解する ②作業療法の歴史と理論的背景を理解する ③身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害、地域リハビリテーションの各領域における作業療法の実際について学ぶ					
授業計画						
第1回 作業療法とは① ～作業療法の定義／作業の定義／作業の治療的意味～						
第2回 作業療法とは② ～作業の分類／生活と作業／作業療法ガイドライン～						
第3回 作業療法の歴史 作業療法の対象						
第4回 作業療法の実際 ～作業療法の原理と作業療法で用いられる理論・病期と圏域～						
第5回 作業療法の実際・過程						
第6回 作業療法部門の管理運営						
第7回 作業療法士の養成・知見と公表						
第8回 作業療法の実際① 身体障害領域						
第9回 作業療法の実際② 精神障害領域						
第10回 作業療法の実際③ 発達障害領域						
第11回 作業療法の実際④ 老年期障害領域						
第12回 作業療法の実際⑤ 地域リハビリテーション						
第13回 作業療法の実際⑥ 各領域の探求						
第14回 作業療法の実際⑦ 各領域の探求						
第15回 作業療法の実際⑧ 各領域の探求						
評価方法						
筆記試験100% 遅刻・欠席および課題未提出については減点します。						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
講義内でお伝えします。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。						

教科書	書名 作業療法学全書 改訂第3版 第1巻 作業療法概論
	著者名 日本作業療法士協会監修 杉原素子編集
	出版社 協同医書出版社
参考図書	書名
	著者名
	出版社
留意事項	<p>本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システムMoodleなどを通じて通知する。</p> <p>また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。</p>

授業科目	作業療法実習 I			担当者	小栢 拓也 他	(オムニバス)
学科名	作業療法学科	学 年	1年	総単位数	1単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内 容	施設見学実習を通して、作業療法への興味関心を高める。					
到達目標	①対象者の方にしっかりと挨拶および自己紹介ができる。 ②2年生が行う医療面接および身体機能評価について、観察された客観的事実を記述できる。 ③対象者の方の話を伺う中で、「障害を持って暮らすということ」についてイメージできる。 ④施設見学実習を通して、医療人としての立ち居振る舞いのあり方を身につけ、作業療法の理解を深める。					
授業計画						
第1回 オリエンテーション						
第2回 グループワーク① 対象者情報の中の分からない言葉／疾患・障害について調べる						
第3回 グループワーク② 身体機能評価 ROM測定とは						
第4回 グループワーク③ 身体機能評価 片麻痺機能テストとは／MMTとは						
第5回 SOAP形式での記録の書き方						
第6回 対象者実習(2年生が実施する内容を見学)						
第7回 レポート作成						
第8回 レポート作成						
第9回 レポート作成						
第10回 レポートフィードバック						
第11回 レポートフィードバック						
第12回 施設見学実習						
第13回 施設見学実習						
第14回 施設見学実習						
第15回 施設見学実習						
第16回 施設見学実習						
第17回 フィードバック						
第18回 報告会準備						
第19回 報告会準備						
第20回 報告会準備						
第21回 報告会準備						
第22回 施設見学実習報告会①						
第23回 施設見学実習報告会②						
評価方法						
①学内実習については、事前学習(グループワーク)20%、レポート30%で判断する。なお、遅刻・欠席および対象者への失礼な言動(言葉かけ・態度)については各5点の減点とする。 ②施設見学実習については、実習地の成績表40%、報告会10%で判断する。 ③①と②を合わせて6割に満たなかった場合(不合格)は、再試験を実施する(筆記試験)。						

授業時間外の学習(予習・復習等)について

施設見学実習に関しては、別途課題を提示しますので、各自課題を実施した上で見学実習に臨んで下さい。

授業時間外の質問について

授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。

教科書

書名	ICF 国際生活機能分類
著者名	世界保健機構(WHO)
出版社	中央法規出版株式会社

参考図書

書名
著者名
出版社

留意事項

授業科目	作業療法実習Ⅱ			担当者	小栢 拓也 他	(オムニバス)
学科名	作業療法学科	学 年	1年	総単位数	1単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	障害をお持ちの方の評価を実施することにより、基礎的な身体機能評価及び医療面接について理解する。					
到達目標	①対象者の方にしっかりとあいさつ及び自己紹介ができる。 ②対象者実習で得られた情報に関してSOAPに記述することができる。 ③対象者の方の話を伺う中で「障害を持って暮らすということ」について具体的にイメージできる。 ④対象者実習を通して対象者様への関わり方など医療人としての立ち振る舞いのあり方を身につける。					
授業計画						
第1回 オリエンテーション・グループワーク(評価計画)						
第2回 グループワーク(評価計画)・評価実技						
第3回 評価実技						
第4回 評価実技						
第5回 対象者実習						
第6回 SOAPによる記録についての講義						
第7回 レポート作成						
第8回 レポート作成						
第9回 レポート作成						
第10回 レポート作成						
第11回 レポート作成						
第12回 レポート作成						
第13回 レポート作成						
第14回 レポートフィードバック						
第15回 レポートフィードバック						
第16回 レポートフィードバック						
第17回 レポートフィードバック						
第18回 レポートフィードバック						
第19回 レポートフィードバック						
第20回 レポートフィードバック						
第21回 レポートフィードバック						
第22回 レポートフィードバック						
第23回 レポートフィードバック						
評価方法						
①対象者実習に向けて、評価計画(20%)						
②対象者実習での実践 (50%・対象者への失礼な言動、リスク管理の不備などはそれぞれ-5点減点とする)						
③レポート(30%) ※遅刻欠席の際も-5点減点とする。						

授業科目	作業療法実習Ⅱ			担当者	小栢 拓也 他	(オムニバス)
学科名	作業療法学科	学 年	1年	総単位数	1単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	障害をお持ちの方の評価を実施することにより、基礎的な身体機能評価及び医療面接について理解する。					
到達目標	①対象者の方にしっかりとあいさつ及び自己紹介ができる。 ②対象者実習で得られた情報に関してSOAPに記述することができる。 ③対象者の方の話を伺う中で「障害を持って暮らすということ」について具体的にイメージできる。 ④対象者実習を通して対象者様への関わり方など医療人としての立ち振る舞いのあり方を身につける。					
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
①対象者実習では、対象となる疾患及び解剖学、生理学、運動学などの基礎知識を復習しておくこと。 ②評価に関しては、ROM・MMT・片麻痺機能検査など作業療法評価学総論で学習したことを全般的に見直しておくこと。実技も練習しておくことが望ましい。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。						
教科書						
書名						
著者名						
出版社						
参考図書						
書名						
著者名						
出版社						
留意事項						
対象者が来校できない状況の場合は、録画ビデオを使用した実習となる。						

授業科目	作業療法評価学総論			担当者	大友 健治 他	
学科名	作業療法学科	学 年	1年	総単位数	3単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	評価の意味や目的を理解し、その手段としての検査、測定の実践を中心に行う。					
到達目標	基本的な検査、測定ができるようになる。					
授業計画						
第1回 オリエンテーション(遠隔授業:オンデマンド)						
第2回 形態測定の概要と実技(遠隔授業:オンデマンド)						
第3回 関節可動域測定の概要(遠隔授業:オンデマンド)						
第4回 関節可動域測定実技①						
第5回 関節可動域測定実技②						
第6回 関節可動域測定実技③						
第7回 関節可動域測定実技④						
第8回 徒手筋力検査の概要(遠隔授業:オンデマンド)						
第9回 徒手筋力検査実技①						
第10回 徒手筋力検査実技②						
第11回 徒手筋力検査実技③						
第12回 徒手筋力検査実技④						
第13回 徒手筋力検査実技⑤						
第14回 徒手筋力検査実技⑥						
第15回 振り返り 小テスト						
第16回 中枢神経障害の概要						
第17回 姿勢反射障害						
第18回 片麻痺機能検査実技①(遠隔授業:オンデマンド)						
第19回 片麻痺機能検査実技②						
第20回 片麻痺機能検査実技③						
第21回 深部腱反射、病的反射検査の概要と実技						
第22回 意識の評価						
第23回 全体の振り返り						
評価方法						
定期試験80% 実技テスト20% 体調不良等の理由のない遅刻・欠席は減点します。						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
選択制授業が含まれるので授業の進行は変則的になると思われますがスケジュールをしっかりと確認してください。各種検査技術の習得には反復的な練習が不可欠なので授業時間外にも時間を作って実技の練習をしてください。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。						

教科書

書名	標準作業療法学 作業療法評価学
----	-----------------

著者名	編 岩崎テル子 他
-----	-----------

出版社	医学書院
-----	------

書名	ROMナビ 動画で学ぶ関節可動域測定法
----	---------------------

著者名	青木 主税 他
-----	---------

出版社	ラウンドフラット
-----	----------

書名	新・徒手筋力検査法
----	-----------

著者名	Helen J. Hislop 他
-----	-------------------

出版社	協同医書出版社
-----	---------

参考図書

書名	
----	--

著者名	
-----	--

出版社	
-----	--

留意事項

本授業は、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営を行う。(遠隔授業又はハイブリット型授業)実施方法や授業計画詳細については、各科目担当者より、別途通知する。

また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更が生じた場合は、各科目担当者より、別途通知する。

授業科目	自然科学概論		担当者	非公開	
学科名	作業療法学科	学 年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修
内 容	<p>私たちヒトという存在は、自然界、生物の世界全体のなかではどのように位置づけられるのか。最新の情報やトピックとともに細胞レベル・遺伝子レベル・構造体としての機序から生命現象を明らかにしていきつつ、その手段となる物理・化学・生物範囲の知識を再確認していきます。 ※トピックは参考例示</p>				
到達目標	<p>ヒトの身体を理解するための自然科学の知識と思考力を手に入れます。医療従事者の基本となる客観的・科学的な考察力と、未知を探究するための素地を醸成していきます。</p>				
授業計画					
第1回 生物:生命の誕生とその起源(細胞レベルの進化と分類 遺伝)※人類誕生の歴史					
第2回 生物:ヒトの生命の維持とそのしくみ (DNA 遺伝子 タンパク質)※癌はなぜできる?					
第3回 生物:ヒトの生命の維持とそのしくみ (エネルギーと代謝 免疫)※ウイルスとヒト					
第4回 生物:ヒトの生命の維持とそのしくみ (刺激と受容 脳と神経の働き)※脳死とは					
第5回 物理:力の単位 力の合成と分解					
第6回 物理:剛体のつりあい 力のモーメント					
第7回 化学:元素、同位体、化学結合 原子の構造 ※原子より小さな粒子はあるのか					
第8回 化学:物質量と化学反応式 酸塩基と中和 酸化と還元 ※モルは一盛りのこと?					
評価方法					
<p>出席・授業への取組(演習問題の発表・レポート、積極的な受講態度)・試験結果で総合的に評価する。 筆記試験(70%) 平常の理解の確認を兼ねる演習・課題レポート、授業への取組など(30%) 欠席、遅刻・早退は減点の対象となる。(1回につき、事前連絡なし:-10点、事前連絡あり:-2点)</p>					
授業時間外の学習(予習・復習等)について					
<p>予習:グループでディスカッション、またはレポート作成できるよう準備してもらうため、事前に通知した内容の図書/ウェブページを閲読/閲覧してもらう場合があります。 復習:講義中に配布した演習プリントで筆記試験にむけての学習をしてください。</p>					
授業時間外の質問について					
<p>授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。</p>					
<p>質問やコメントに対するフィードバックは可能な限り、授業時間内に行います。それ以外に関しては、教務を通じて質問してください。 教務メールアドレス:kyomu@ocr.ac.jp</p>					
教科書					
書名		プリントを適宜配布する			
著者名					
出版社					

授業科目	自然科学概論		担当者	非公開	
学科名	作業療法学科	学 年	1年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修
内 容	<p>私たちヒトという存在は、自然界、生物の世界全体のなかではどのように位置づけられるのか。最新の情報やトピックとともに細胞レベル・遺伝子レベル・構造体としての機序から生命現象を明らかにしていきつつ、その手段となる物理・化学・生物範囲の知識を再確認していきます。 ※トピックは参考例示</p>				
到達目標	<p>ヒトの身体を理解するための自然科学の知識と思考力を手に入れます。医療従事者の基本となる客観的・科学的な考察力と、未知を探求するための素地を醸成していきます。</p>				
参考図書					
書名	『カラー図解 アメリカ版 新・大学生物学の教科書』全3冊				
著者名	D・サダヴァ (著), 石崎 泰樹 (監修, 翻訳), 中村 千春 (監修, 翻訳), 小松 佳代子				
出版社	ブルーバックス				
書名	「基礎から学ぶ力学」				
著者名	乾雅祝・畠中憲之・星野公三				
出版社	培風館				
書名	「なっとくするベクトル」				
著者名	小野寺嘉孝				
出版社	講談社				
書名	高校化学図録				
著者名					
出版社	数研出版				
留意事項					
<p>生物分野(第1回～第4回)では、色鉛筆を使用します。各自12色程度の色鉛筆を準備してください。</p> <p>本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システムMoodleなどを通じて通知する。</p> <p>また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。</p>					

授業科目	情報処理		担当者	内藤 富美子	
学科名	作業療法学科	学 年	1年	総単位数	2単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修
内 容	21世紀のデジタル・メディア時代において、現代社会における情報の意義がどのようなものであるか様々な観点から問題化し、特に情報を解釈する能力の開発を目指す。またプレゼンテーション方式の発表により、情報の本質を正しくアウトプットすることで社会人として必要なコミュニケーションの技法を学ぶ。				
到達目標	情報を正しく判断し、情報を通じて決定を下す能力を養う。 実践的なアウトプット学習により、社会で必要とされる要約力や企画力を養う。				
授業計画					
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・授業概要。Windows10初回利用設定(パスワード設定)。 ・ブラウザの利用。学校メールアドレスの利用。eメール送受信。 ・学校メール(G-mail)ログイン確認。ファイル管理(フォルダ及びファイル作成) ・クラウド(Googleドライブ)または外部メディア(USBメモリ)の利用。 ・遠隔受講への備えを兼ねた講義支援システムMoodleの紹介と受講(操作)の紹介。 ・フォルダ及びファイル作成。メールへのファイル添付。タイピング練習方法。 				
第2回	Word①画面構成とコマンドの使い方、入力(変換)操作の注意点。 文書の編集。ページ設定/書式設定(段落書式/文字書式の違いと操作)。				
第3回	Word②グラフィック操作(Wordアート・画像の挿入)				
第4回	Word③表のある文書編集。 Excel①画面構成、データ入力、数式				
第5回	Excel②関数、参照方式、セルの書式設定				
第6回	Excel③グラフ機能				
第7回	Excel④データベース機能				
第8回	PowerPoint①基本機能				
第9回	PowerPoint②特殊効果				
第10回	医療健康衛生に関する論文を読む				
第11回	論文から情報を読み取りまとめる				
第12回	論文をまとめて発表しよう(PowerPointで資料作成)				
第13回	発表会①(PowerPointプレゼンテーション)				
第14回	発表会②(PowerPointプレゼンテーション)				
第15回	まとめ(最終課題)				
評価方法					
論文をまとめて発表する 60% 最終課題 40%					
授業時間外の学習(予習・復習等)について					
パソコンの使用の習熟が大前提になります。3年生では実習後にパソコンでの報告が必要になります。他にもレポート提出などで必要となるため、学習用のパソコン購入が推奨されます。今回の講義では、操作方法の実践的な学習もありますので、各週での学習内容について自分だけで再現できるように学びを深めてください。					

授業科目	情報処理		担当者	内藤 富美子	
学科名	作業療法学科	学 年	1年	総単位数	2単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修
内 容	21世紀のデジタル・メディア時代において、現代社会における情報の意義がどのようなものであるか様々な観点から問題化し、特に情報を解釈する能力の開発を目指す。またプレゼンテーション方式の発表により、情報の本質を正しくアウトプットすることで社会人として必要なコミュニケーションの技法を学ぶ。				
到達目標	情報を正しく判断し、情報を通じて決定を下す能力を養う。 実践的なアウトプット学習により、社会で必要とされる要約力や企画力を養う。				
授業時間外の質問について					
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。授業時間外の場合は、教務事務を通じて、回答いたしますので、以下のアドレスにメールしてください。					
メールアドレス			kyomu@ocr.ac.jp		
教科書					
書名		よくわかる Word 2019 & Excel 2019 & PowerPoint 2019 (ISBN:978-4-86510-399-1)			
著者名					
出版社		FOM出版			
参考図書					
書名		「高校の情報1が1冊でしっかりわかる本」			
著者名		鎌田高穂・鹿野利春			
出版社		かんき出版			
留意事項					
本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システム Moodle などを通じて通知する。 また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。					

授業科目	心理学			担当者	鈴木 暁子	
学科名	作業療法学科	学 年	1年	総単位数	2単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内 容	心理学は人間の心や行動を客観的に理解するための学問である。人間の心というブラックボックスを科学的に解き明かしていく心理学の研究方法は、私たちの身の回りの事象を客観的に理解する事にも役立つ。この広く深い学問の魅力をできる限り伝えたい。					
到達目標	人を援助する職業に必要な人間理解の糸口となる心理学の基礎知識を学習するとともに、国家試験科目である臨床心理学の基礎となる知識も身につける事を目標とする。					

授業計画

第1回 心理学の考え方①

第2回 心理学の考え方②

第3回 ト라우マについて

第4回 人と音楽①

第5回 人と音楽②

第6回 人の性格①

第7回 人の性格②

第8回 学習①

第9回 学習②

第10回 記憶と知能

第11回 動機づけ①

第12回 動機づけ②

第13回 動機づけ③

第14回 社会心理学入門①

第15回 社会心理学入門②

評価方法

期末筆記試験100%

授業時間外の学習(予習・復習等)について

教科書に載っている内容は、講義の後に読んで復習してください。

授業時間外の質問について

授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。

教科書

書名	はじめて出会う心理学[第3版]
著者名	長谷川寿一 他
出版社	有斐閣アルマ

参考図書

書名	
著者名	
出版社	

授業科目	心理学		担当者	鈴木 暁子	
学科名	作業療法学科	学 年	1年	総単位数	2単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修
内 容	心理学は人間の心や行動を客観的に理解するための学問である。人間の心というブラックボックスを科学的に解き明かしていく心理学の研究方法は、私たちの身の回りの事象を客観的に理解する事にも役立つ。この広く深い学問の魅力をできる限り伝えたい。				
到達目標	人を援助する職業に必要な人間理解の糸口となる心理学の基礎知識を学習するとともに、国家試験科目である臨床心理学の基礎となる知識も身につける事を目標とする。				
留意事項					
<p>教科書は2020年に改訂されましたので、旧版を購入しないよう注意してください。配布資料が多いので整理の仕方を工夫してください。</p> <p>本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システム Moodle などを通じて通知する。</p> <p>また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。</p>					

授業科目	人間関係学			担当者	有賀 喜代子	
学科名	作業療法学科	学 年	1年	総単位数	2単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内 容	人間関係の形成は保健医療分野に携わるものとして基盤となる。そのために必要な基礎知識を習得する。また自分自身を知る、表現する、他者の意見に耳を傾けることをアクティブラーニングの中で体験し学ぶ。					
到達目標	アサーション、対話の技術など基礎知識を理解する。授業での体験学習や日常場面での課題を通じて対人コミュニケーション技術を身につけること。					
授業計画						
第1回 アサーションを学ぶ必要性						
第2回 自己開示とは。ジョハリの窓について						
第3回 アサーションとは①伝え合いの仕組み						
第4回 作業を介した人間関係①実技; 絵画、指導時の留意点						
第5回 作業を介した人間関係②実技; 絵画、対象者への関わり方						
第6回 アサーションとは②アサーションの3つの型						
第7回 アサーションとは③メンテナンスのアサーション; ほめる						
第8回 アサーションとは④なぜ自分をうまく表現できないのか						
第9回 バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーション						
第10回 非合理的思い込みについて						
第11回 感情を上手に表現する						
第12回 面接技術: 傾聴とは						
第13回 オープンダイアログについて						
第14回 オープンダイアログ形式での面接実習						
第15回 臨床の現場ーべてるの家での「当事者研究」について						
評価方法						
提出課題: 40%						
レポート: 60%						
無断での遅刻、欠席は減点とする						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
予習: 指定している教科書部分については読んでおく。毎回実施する小グループでのワークについては率直に感じたことを書くこと。欠席した場合はその日のワーク内容を自分自身で実施して提出すること。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。授業時間外の場合は、以下のアドレスにメールしてください。						
メールアドレス			kiiyo@mx2.canvas.ne.jp			

授業科目	人間関係学			担当者	有賀 喜代子	
学科名	作業療法学科	学 年	1年	総単位数	2単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内 容	人間関係の形成は保健医療分野に携わるものとして基盤となる。そのために必要な基礎知識を習得する。また自分自身を知る、表現する、他者の意見に耳を傾けることをアクティブラーニングの中で体験し学ぶ。					
到達目標	アサーション、対話の技術など基礎知識を理解する。授業での体験学習や日常場面での課題を通じて対人コミュニケーション技術を身につけること。					
教科書						
	書名	自分の気持ちをきちんと伝える本				
	著者名	平木典子				
	出版社	PHP研究所				
参考図書						
	書名	マンガでやさしくわかるオープンダイアログ				
	著者名	向後善之、他				
	出版社	日本能率協会マネジメントセンター				
留意事項						
<p>本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システム Moodle などを通じて通知する。</p> <p>また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。</p>						

授業科目	人間発達学			担当者	福澤 友輝 他	(オムニバス)
学科名	作業療法学科	学 年	1年	総単位数	1単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	人間発達学は、”人の一生涯にわたる発達について学ぶ学問”である。人間の発達は、決して子どもに限ったものではなく、誕生から成長、成熟を経て、最終的に死を迎える成人や高齢者にも当てはまる。”人”を支援する作業療法士にとって、人間発達学は必要不可欠な学問といえる。					
到達目標	①人間発達の基礎(運動、認知機能、社会性、言語など)を理解する。 ②発達障がいの子どもへの発達支援の様子に触れる。					
授業計画						
第1回 人間発達学の基礎						
第2回 胎児期の発達						
第3回 運動の発達						
第4回 認知能力の発達						
第5回 社会性の発達						
第6回 情動・愛着の発達						
第7回 言語の発達①						
第8回 言語の発達②						
第9回 摂食嚥下の発達						
第10回 遊び・生活能力の発達						
第11回 道徳性の発達						
第12回 家族関係の発達						
第13回 発達の評価						
第14回 発達の統合的理解						
第15回 臨床実践報告						
評価方法						
筆記試験100% 遅刻・欠席については減点対象となります。						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
予習より復習に重点を置いてください。授業はスライドで基本実施し、スライドも授業前に配布する予定です。 講義内容で理解が出来なかったところは、何でも気軽に質問してください。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。						

教科書	
書名	リハビリテーションテキスト 人間発達学
著者名	編集 浅野大喜
出版社	MEDICAL VIEW
参考図書	
書名	リハビリテーションのための人間発達学
著者名	編集 大城 晶平、儀間 裕貴
出版社	メディカルプレス
留意事項	<p>無断欠席や遅刻に注意してください</p> <p>本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システムMoodleなどを通じて通知する。</p> <p>また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。</p>

授業科目	生命倫理学			担当者	長谷川 昌士	
学科名	作業療法学科	学 年	1年	総単位数	2単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内 容	社会全体のモラルの低下や医療情勢のめまぐるしい変化に伴う価値観の多様化などから、作業療法士の品性や倫理性が問われる状況が増えてきました。そこで、日本作業療法士協会が発刊する「作業療法士の職業倫理指針」を用い、自分自身の倫理観や倫理意識を見直しましょう。					
到達目標	作業療法士として品性、倫理観を養う。生命倫理の四原則である自律性の尊重、無危害、善行、公正について自分なりに考えをまとめることができる。					
授業計画						
第1回 作業療法士の職業倫理とは						
第2回 自己研鑽						
第3回 業務上の最善努力義務(基本姿勢)						
第4回 誠実(良心)						
第5回 人権尊重・差別の禁止						
第6回 専門職上の責任						
第7回 実践水準の維持						
第8回 安全性への配慮・事故防止						
第9回 守秘義務 記録の整備・保守						
第10回 職能間の協調 教育(後輩育成)						
第11回 報酬 研究倫理						
第12回 インフォームド・コンセント						
第13回 法の遵守						
第14回 情報の管理						
第15回 まとめ						
評価方法						
レポート 100%						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
普段から日常生活や社会生活における倫理的課題を整理し、解決策を考えてみてください。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。授業時間外の場合は、以下のアドレスにメールしてください。						
メールアドレス			hotsmile.hasegawa@gmail.com			
教科書						
書名			プリント配布			
著者名						
出版社						
参考図書						
書名						
著者名						
出版社						

授業科目	生命倫理学			担当者	長谷川 昌士	
学科名	作業療法学科	学 年	1年	総単位数	2単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内 容	社会全体のモラルの低下や医療情勢のめまぐるしい変化に伴う価値観の多様化などから、作業療法士の品性や倫理性が問われる状況が増えてきました。そこで、日本作業療法士協会が発刊する「作業療法士の職業倫理指針」を用い、自分自身の倫理観や倫理意識を見直しましょう。					
到達目標	作業療法士として品性、倫理観を養う。生命倫理の四原則である自律性の尊重、無危害、善行、公正について自分なりに考えをまとめることができる。					
留意事項						
無断欠席や遅刻に注意してください。						
本授業は、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営を行う。(遠隔授業又はハイブリット型授業) 実施方法や授業計画詳細については、各科目担当者より、別途通知する。						
また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更が生じた場合は、各科目担当者より、別途通知する。						

授業科目	生理学		担当者	長谷川 昌士	□実務教員
学科名	作業療法学科	学 年	1年	総単位数	2単位
		開講時期	通年	選択・必修	必修
内 容	生理学は医学の基礎をなす学問である。作業療法において対象となる身体障がい、内部障がいなどの疾患の理解には生理学の知識が必要となる。この講義では人体生理のしくみについて、その概要を体系的に学習していく。				
到達目標	各器官や臓器におけるしくみについて自分なりに説明ができることを到達目標とする。また、国家試験の類似問題を解きながら、6割以上の正解を目指せるように要点をまとめていく。				
実務教員による授業	臨床経験豊富なエキスパートの講師が、最新の知見を基に講義と実技を行う。 【講師略歴】 回復期病院、急性期病院を経て、現在は地域リハビリテーションに従事している。				
授業計画					
第1回 細胞と内部環境C15:K36C1C15:K40					
第2回 細胞の情報伝達					
第3回 血液の成分と機能					
第4回 生体防御と機能					
第5回 大循環、小循環 心機能およびその調節					
第6回 心臓リハビリテーション					
第7回 呼吸運動・調節					
第8回 呼吸リハビリテーション					
第9回 酸－塩基平衡					
第10回 腎臓の機能					
第11回 排泄のしくみ					
第12回 筋の構造と機能					
第13回 骨格筋の収縮と機能					
第14回 平滑筋の収縮と機能					
第15回 消化と吸収(上部消化管)					
第16回 消化と吸収(下部消化管)					
第17回 代謝、栄養					
第18回 体温調節					
第19回 体力					
第20回 運動と生体機能					
第21回 内分泌、ホルモンの作用					
第22回 性と生殖					
第23回 体性感覚					
第24回 特殊感覚					
第25回 神経線維の興奮伝導					
第26回 神経筋接合部の構造					
第27回 末梢神経系の機能					
第28回 神経系の基本構造					
第29回 神経系と随意運動					
第30回 脳幹、視床下部の構造と機能					

評価方法	
筆記試験(前期試験・後期試験) 100%	
授業時間外の学習(予習・復習等)について	
解剖学の知識がないと講義内容が把握しづらいところがあります。できれば、講義前日に解剖学の教科書(同一分野)を一読してきてください。	
授業時間外の質問について	
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。授業時間外の場合は、以下のアドレスにメールしてください。	
メールアドレス	hotsmile.hasegawa@gmail.com
教科書	
書名	PT・OT専門基礎分野 生理学
著者名	石澤光郎、富永 淳
出版社	医学書院
教科書	
書名	病気が見えるシリーズ vol.2 循環器
著者名	
出版社	メディックメディア
教科書	
書名	病気が見えるシリーズ vol.4 呼吸器
著者名	
出版社	メディックメディア
留意事項	
無断欠席や遅刻に注意してください。	
本授業は、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営を行う。(遠隔授業又はハイブリット型授業) 実施方法や授業計画詳細については、各科目担当者より、別途通知する。	
また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更が生じた場合は、各科目担当者より、別途通知する。	

授業科目	生理学実習			担当者	小栢 拓也	
学科名	作業療法学科	学 年	1年	総単位数	1単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	解剖学・生理学・運動学の講義を踏まえ、環境の変化や運動に対する生体の反応や恒常性維持について学習する。					
到達目標	実際の人々の生理機能を自らの手で計測し、その結果を解析・考察することにより、人体機能のダイナミクスやホメオスタシスが維持されるメカニズムを理解する。実験結果と文献を用いたレポートを作成することができる。またこの実習を通して、医療従事者として必要な姿勢や洞察力を養う。					
授業計画						
第1回 オリエンテーション: 課題の説明、血圧・心拍数測定の実習および実習説明						
第2回 第1クール実習(血圧・心拍数の測定)(時間選択)						
第3回 第1クール実習(血圧・心拍数の測定)(遠隔授業: オンデマンド)						
第4回 第2クール実習(体温の測定)実験説明						
第5回 第2クール実習(体温の測定)(時間選択)						
第6回 第2クール実習(体温の測定)(遠隔授業: オンデマンド)						
第7回 第3クール実習(呼吸について)実験説明						
第8回 第3クール実習(呼吸について)						
第9回 第3クール実習(呼吸について)(遠隔授業: オンデマンド)						
第10回 第4クール実習(皮膚感覚について)実験説明						
第11回 第4クール実習(皮膚感覚について)(時間選択)						
第12回 第4クール実習(皮膚感覚について)(遠隔授業: オンデマンド)						
第13回 第5クール実習(視覚機能について)実験説明						
第14回 第5クール実習(視覚機能について)(時間選択)						
第15回 第5クール実習(視覚機能について)(遠隔授業: オンデマンド)						
第16回 第6クール実習(バランスについて)実験説明						
第17回 第6クール実習(バランスについて)(時間選択)						
第18回 第6クール実習(バランスについて)(遠隔授業: オンデマンド)						
第19回 第6クール実習(味覚嗅覚について)実験説明						
第20回 第6クール実習(味覚嗅覚について)(時間選択)						
第21回 第6クール実習(味覚嗅覚について)(遠隔授業: オンデマンド)						
第22回 レポート作成・フィードバック						
第23回 まとめ						
評価方法						
レポート 100% 遅刻・欠席、レポート遅れや未提出は減点します。						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
解剖学・生理学・運動学について復習すること。 実験後は、レポートを提出すること。						

授業科目	生理学実習			担当者	小栢 拓也	
学科名	作業療法学科	学 年	1年	総単位数	1単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	解剖学・生理学・運動学の講義を踏まえ、環境の変化や運動に対する生体の反応や恒常性維持について学習する。					
到達目標	実際の人々の生理機能を自らの手で計測し、その結果を解析・考察することにより、人体機能のダイナミクスやホメオスタシスが維持されるメカニズムを理解する。実験結果と文献を用いたレポートを作成することができる。またこの実習を通して、医療従事者として必要な姿勢や洞察力を養う。					
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。						
教科書						
書名						
著者名						
出版社						
参考図書						
書名 生理学実習NAVI 第2版						
著者名 大橋 敦子						
出版社 医歯薬出版株式会社						
留意事項						
<p>本授業は、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営を行う。(遠隔授業又はハイブリット型授業)実施方法や授業計画詳細については、各科目担当者より、別途通知する。</p> <p>また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更が生じた場合は、各科目担当者より、別途通知する。</p>						

授業科目	地域福祉学			担当者	山河 正裕	
学 科 名	作業療法学科	学 年	1年	総単位数	2単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	地域福祉の現状を踏まえ、その理念と展開、関連法制度などについて、実例をもとに医療・保健・福祉の役割・連携を考察することにより、地域福祉のあり方や課題を理解する。また本講義では、子どもや障害者、高齢者などが地域社会で安心した暮らしを送れるための様々な援助技術や考え方の基礎知識と活用について修得すると同時に、当事者やその家族を講師として招き、全人的な支援について学びます。					
到達目標	①地域社会を構成する一人として、地域の人々や暮らし、課題に対して関心を持つことができる ②地域福祉の推進にかかわるセラピストとしての役割と自覚について考えることができる。 ③社会福祉の歴史、社会資源の基礎知識、援助技術を修得することができる。 ④障害者やその家族のニーズや心理を理解することができる。					
授業計画						
第1回 オリエンテーション 本講義の概要と地域福祉の理念						
第2回 社会資源の形成過程Ⅰ 無認可(小規模)作業所と障害者施策						
第3回 社会資源の形成過程Ⅱ 「親亡き後」と地域福祉の現状						
第4回 障害当事者・家族による講義と交流① 障害受容と社会復帰(当事者1名)						
第5回 社会福祉の歴史と仕組みⅠ 優生思想とノーマライゼーション						
第6回 社会福祉の歴史と仕組みⅡ 社会保障制度の基礎知識						
第7回 障害当事者・家族による講義と交流② 夫の介護と私の人生(家族1名)						
第8回 地域福祉の現状と課題Ⅰ 現代社会が抱える地域福祉の課題						
第9回 地域福祉の現状と課題Ⅱ ソーシャルサポートネットワークの形成と取り組み						
第10回 障害当事者・家族による講義と交流③ 当事者にとってのリハビリテーションとは(当事者1名)						
第11回 地域福祉の推進と関連法制度Ⅰ 障害者総合支援法と介護保険①						
第12回 地域福祉の推進と関連法制度Ⅱ 障害者総合支援法と介護保険②						
第13回 地域福祉の推進と関連法制度Ⅲ 障害者総合支援法と介護保険③						
第14回 今後の医療・福祉の制度設計 地域包括ケアシステムと障害者権利条約						
第15回 障害当事者・家族による講義と交流④ 見ようとならない高次脳機能障害者(当事者1名)						
評価方法						
筆記試験(100%)で評価します。						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
居住地の市町村社会福祉協議会の活動内容について、ホームページや広報紙などにより事前に把握しておいてください。 また、日頃から社会保障関連(医療・介護・年金など)の報道などに注視してください。						

授業科目	地域福祉学			担当者	山河 正裕	
学科名	作業療法学科	学 年	1年	総単位数	2単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	地域福祉の現状を踏まえ、その理念と展開、関連法制度などについて、実例をもとに医療・保健・福祉の役割・連携を考察することにより、地域福祉のあり方や課題を理解する。また本講義では、子どもや障害者、高齢者などが地域社会で安心した暮らしを送れるための様々な援助技術や考え方の基礎知識と活用について修得すると同時に、当事者やその家族を講師として招き、全人的な支援について学びます。					
到達目標	①地域社会を構成する一人として、地域の人々や暮らし、課題に対して関心を持つことができる ②地域福祉の推進にかかわるセラピストとしての役割と自覚について考えることができる。 ③社会福祉の歴史、社会資源の基礎知識、援助技術を修得することができる。 ④障害者やその家族のニーズや心理を理解することができる。					
授業時間外の質問について 授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。授業時間外の場合は、以下のアドレスにメールしてください。						
メールアドレス		rasinban@ceres.ocn.ne.jp				
教科書 書名 著者名 出版社						
参考図書 書名 著者名 出版社						
留意事項 無断欠席や遅刻に注意してください。 本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システム Moodle などを通じて通知する。 また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。						

授業科目	統計学			担当者	周藤 俊治	
学科名	作業療法学科	学 年	1年	総単位数	1単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	保健医療分野の論文や報告書などで出てくる統計処理の結果や手法などについて理解し、実際に読み取れるようになることを目的に講義を行う					
到達目標	1) 代表値や散布度を算出できる 2) 研究デザインについて説明できる 3) 適切な分析手法を選択できる					
授業計画						
第1回 研究法(1)量的研究(観察研究)						
第2回 研究法(2)量的研究(介入研究), 調査票						
第3回 ROC曲線						
第4回 統計解析(1)記述統計(度数, 代表値, 散布度)						
第5回 統計解析(2)推測統計(散布度)						
第6回 統計解析(3)推測統計(確率分布)						
第7回 統計解析(4)推測統計(平均値の区間推定)						
第8回 統計解析(5)推測統計(平均値の検定)						
評価方法						
筆記試験100%						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
授業中取り扱った課題を復習すること						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。授業時間外の場合は、以下のアドレスにメールしてください。						
メールアドレス				f13606@ocr.ac.jp		
教科書						
書名		作業療法研究法				
著者名		竹田徳則・大浦智子 編著／木村大介 著／廣江貴則 第3部「統計解析」監修／藤本修平 第3部「統計解析」編著				
出版社		医歯薬出版株式会社				
参考図書						
書名						
著者名						
出版社						
留意事項						
復習時には講義情報(https://medbb.net)を確認すること。						
本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システム Moodle などを通じて通知する。 また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。						

授業科目	臨床ゼミナール I			担当者	北田 泰敏	
学科名	作業療法学科	学 年	1年	総単位数	1単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内 容	医療人としての在り方や、作業療法の役割・知識や技術について理解を深め、グループ学習、ディスカッション等の演習を通じた学習を行う。そこから取り組むべき個人の学習課題を見つける。また、学習したことをまとめて報告することでプレゼンテーション技術を身に付ける。					
到達目標	医療人としての在り方について理解し、実践できる。作業療法の役割・知識や技術について説明できる。					
授業計画						
第1回 オリエンテーション/福祉用具についての理解を深める(グループワーク)						
第2回 福祉用具についての理解を深める(グループワーク)						
第3回 バリアフリー展見学						
第4回 バリアフリー展見学						
第5回 バリアフリー展見学						
第6回 グループ報告会準備						
第7回 グループ報告会準備						
第8回 グループ報告会						
評価方法						
レポート100%						
無断での遅刻、欠席は減点します。						
報告会への参加、発表を持って採点します。						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
授業で配布する資料等に目を通しておくこと。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。						
教科書						
書名						
著者名						
出版社						
参考図書						
書名						
著者名						
出版社						
留意事項						
本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システムMoodleなどを通じて通知する。						
また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。						

授業科目	臨床ゼミナールⅡ			担当者	島田 康雄・松下 健史 他	
学科名	作業療法学科	学 年	1年	総単位数	1単位	(オムニバス)
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内 容	グループで学習したことを報告することでプレゼンテーション技術を身につける。障がい者スポーツ(フットサル)を通して、障がいを持った子供との関りを学ぶ。作業療法で行われている手工芸を行う。					
到達目標	学習したことを作業療法士の視点で報告会で発表することができる。障害者体験や籐細工を経験し、感じたことを感想文にまとめる。					
授業計画						
第1回 オリエンテーション						
第2回 ダウン症児のサッカースクール参加①						
第3回 ダウン症児のサッカースクール参加②						
第4回 レポート課題①						
第5回 レポート課題②						
第6回 動作介助入門						
第7回 籐細工①						
第8回 籐細工②						
評価方法						
①グループ報告会(60%)＋②提出物(40%) 体調不良などやむを得ない理由のない遅刻・欠席は減点します。						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
まずは経験をすることだと思います。楽しんで取り組んでください。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。						
教科書						
書名						
著者名						
出版社						
参考図書						
書名						
著者名						
出版社						
留意事項						
本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システムMoodleなどを通じて通知する。 また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。						

授業科目	臨床心理学			担当者	鈴木 暁子	
学科名	作業療法学科	学 年	1年	総単位数	1単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	作業療法士の業務に必要な臨床心理学の知識と技術を講義する。また国試対策として過去問題の解説により、必要な知識の整理をする。					
到達目標	臨床に必要なカウンセリングマインドを身につける。国試に必要な知識を身につける。					
授業計画						
第1回 カウンセリング入門①						
第2回 カウンセリング入門②						
第3回 カウンセリング入門③						
第4回 カウンセリング入門④						
第5回 カウンセリング入門⑤						
第6回 国試過去問解説①						
第7回 国試過去問解説②						
第8回 国試過去問解説③						
第9回 国試過去問解説④						
第10回 国試過去問解説⑤						
第11回 国試過去問解説⑥						
第12回 コーチング入門①						
第13回 コーチング入門②						
第14回 交流分析						
第15回 まとめ						
評価方法						
期末筆記試験100%						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
配布資料を読み返してください。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。						
教科書						
	書名	はじめて出会う心理学[第3版]				
	著者名	長谷川寿一 他				
	出版社	有斐閣アルマ				
参考図書						
	書名					
	著者名					
	出版社					
留意事項						
教科書は前期「心理学」と同じです。配布資料が多いので整理の仕方を工夫してください。						
本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システム Moodle などを通じて通知する。						
また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。						